

兵庫・明石城武家屋敷跡

あかしじょうぶけやしき

1 所在地 兵庫県明石市東仲ノ町

2 調査期間 第五九次調査 一九九七年(平9) 一〇月―一九九八年三月

3 発掘機関 明石市教育委員会

4 調査担当者 船越重伸・渡辺昇

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

明石城跡は、江戸時代になって小笠原忠政(真)によって築かれた

明石藩の城郭で、それに伴って城下町の建設も進められた。

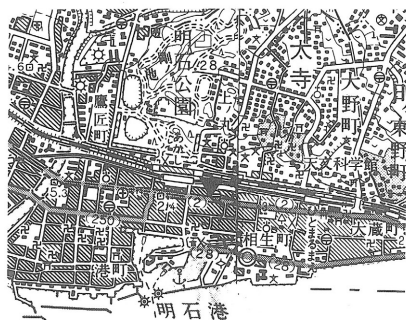
今回の調査は、再開発事業に伴うもので、東仲ノ町

地区第四次調査にあたる。

調査地は、城下町のうち、

武家屋敷の南東部分に相当

する地域で、中・下級武士



(明石・須磨)

の屋敷跡である。

調査の結果、江戸時代全般にわたる遺構を検出した。木簡は、江戸時代末の廃棄土坑SX1001四・SX1006四から一点ずつ、計二点出土した。いずれも多量の陶磁器類・瓦などとともに出土している。なお廃棄土坑SX1200四からは、「吉田」と墨・膠で記された土器も出土している。焼き継ぎ屋が土器を補修する際、取り違えを防ぐために、その土器の所有者を明記したものであろう。文久年間の絵図によると、調査地点に相当する位置にある屋敷の家名は「吉田」であり、これと一致することが注目される。今回出土の土器は、絵図の正当性を裏付ける資料といえよう。

8 木簡の釈文・内容

SX1001四

(1) 「明石人丸山
大般若経永代講(焼印)
月照寺」

「る
つ
」
□□次世」

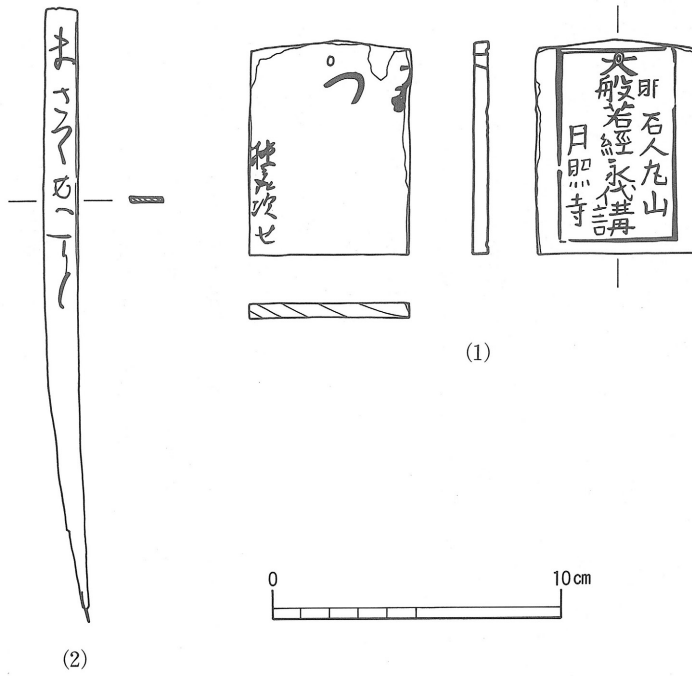
78×58×6 011

SX1006四

(2) 「まゝて□□□

(217)×12×2 059

(1)は調査区の北東に所在する月照寺の木札である。大般若経永代



講のもので、表は焼印が捺され、裏面に墨書がみられる。参加者の個人名が記されているものと思われる。

(2)は細長い板に平仮名を墨書したものである。材は下部を欠く。

(渡辺 昇〈兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所〉)